

TGR TEAM KeePer CERUMO

2026 AUTOBACS SUPER GT Report

SUGO GT 300km RACE

第6戦 スポーツランド SUGO

KeePer CERUMO GR Supra

#38 大湯都史樹／小林利徠斗

◆ 9月20日（日） RACE

決勝結果 10 位



5番手と上位を狙うグリッドを獲得し、公式予選を終えた TGR TEAM KeePer CERUMO は、一夜明けた 9 月 20 日（日）、決勝日を迎えた。この日のスポーツランド SUGO は朝から細かな雨が降り続いており、コンディションはウエットだったが、決勝レース前に午後 0 時から行われたウォームアップ走行の前に雨は止み、少しずつ路面は乾いていった。

スターティンググリッドではうっすらと日が差すなどコンディションが回復していくなか、午後 1 時 30 分から始まった決勝レースには全車がスリックタイヤを履いて臨むことになった。気温 23 度／路面温度 25 度というコンディションのもと、セーフティカー先導のもとで決勝レースが始まった。

レコードライン以外は濡れている部分も多く、難しいコンディションで KeePer CERUMO GR Supra のスタートドライバーを務めた小林利徠斗は、果敢に前を追いながらレース序盤を戦っていった。ただ、混戦のなかでレースが 10 周を過ぎる頃になると、前に行く #100 HRC



Prelude-GT との差はわずかに開いていき、後続の #16 HRC Prelude-GT とのギャップも開く状況となり、小林は単独走行に近い状況でレースを進めていっ



TGR TEAM KeePer CERUMO

た。ただ、ポジションが危ぶまれるような展開でもなく、前とのギャップも詰める走りをみせた。前日チームが期待したとおりの展開となっていた。



そんな中、ピットインのタイミングも近づこうかという 27 周目、最終コーナーでアクシデントが起きた。小林の後方を走っていた#16 HRC Prelude-GT が、最終コーナー立ち上がりでスピンした GT300 車両を避けきれず、激しくクラッシュしてしまう。これでレースは即座にフルコースイエロー

導入となり、さらにセーフティカーランに切り替えられた。

セーフティカーは 33 周目に退去することになるが、そのタイミングで一部の車両はピットに入っていく一方、KeePer CERUMO GR Supra は 35 周を終えてピットイン、大湯都史樹に交代した。ここで先にピット作業を行っていた陣営に先行を許したものの、39 周目には#36 GR Supra、#100 HRC Prelude-GT とのバトルの中で 6 番手に浮上するなど、上位争いに食らいついていった。

しかし、43 周を過ぎたあたりから KeePer CERUMO GR Supra は急激にペースが苦しくなってしまった。大湯は前半の小林と同じ種類のタイヤを装着していたが、コンディションの変化、路面の変化などもあったかペースが上がらない。ライバルたちに続々とオーバーテイクを許す展開となっしまい、一時は 11 番手まで後退してしまった。タイヤ交換を行った#64 HRC Prelude-GT のピットインで 10 番手には戻ったが、その後もペースを上げることはできず。そのまま 10 位でチェッカーを受けることになった。



TGR TEAM KeePer CERUMO にとってはストレスが溜まるレースとなってしまったが、そんな中でも耐えて掴んだ 1 ポイントは今後に生きるはずだ。何



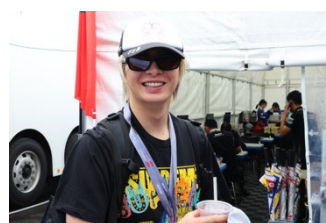
TGR TEAM KeePer CERUMO

より、前半スティントをしっかりとこなした小林の走りは、自信にも繋がった。

2026年のSUPER GTは、これからシーズン終盤戦を迎えることになる。これから先がタイトル争いにとっても重要になる。そして、何より今季飾れていない優勝を掴まなければならない。TGR TEAM KeePer CERUMOは第7戦オートポリスに向け、全力を尽くしていく。

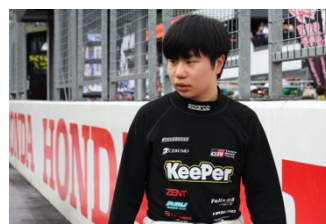
ドライバー／大湯都史樹

「レース後半は何も良いところもありませんでしたし、当てられまくるストレスが溜まる内容になってしまいました。そもそものペースの悪さが出てしまいましたが、ある意味『案の定』な結果となりました。レース序盤の小林選手のスティントでは雨が絡んでいたところもあったと思いますし、セーフティカーランなどもあってある程度ポジションをキープできたのは良かったのですが、僕のスティントでは『まあそうだよね』という展開になってしまいました。公式練習からのフィーリングの悪さがそのまま出てしまったかたちです。次戦オートポリスまでに改善できる部分は少ないかもしれませんが、何かできることがなかったかをちゃんと検証していきたいです。今シーズンはまだ優勝できていませんが、パフォーマンスを含め足りていないところはあると思います。オートポリスもまたクルマに厳しいサーキットなので、いろいろ考えていきたいと思います」



ドライバー／小林利徠斗

「濡れた路面でスリックを履いた状態でのスタートで、若干の不安はありましたが、しっかりタイヤを温めつつ、うしろをしっかり牽制し、余裕があれば前を追うということまでができたので、実際に抜くには至りませんでした。順位をしっかりとキープしたままスティントを終えることができました。タイヤが厳しい状況で、しっかりタイヤを護りきりスティントを終えることができたと思います。ピット作業での停車位置などもだんだん良くなってきたので、レース全体を通じて、自分にとってはかなり成長でき



TGR TEAM KeePer CERUMO

たな、と感ずることができました。残念ながら結果には結びつきませんでした
が、クルマのパフォーマンスが必ずしも高くなかったのは分かっていました。
その中でも、自分がしっかり仕事のできたからこそ獲れた1ポイントだったと
も思ひますし、大湯選手が苦しい戦いのなかで頑張ってくださったことも見て
います。僕が同じ立場だったらどうなるかも考えていました。レースはいろい
ろな要素があるので、めげずに次戦はもっと良くなるように頑張っていきたい
と思ひます」

立川祐路監督

「今日の決勝は天候に不安がありましたが、スタート前に予想よりも乾いてくれたので、ドライコンディションでレースをすることができたのは良かったです。レース前半は小林選手が5番手を守ってくれて、期待したどおりの展開にすることができましたが、レース後半、大湯選手に交代してからは予想外に苦しい状況になってしまいました。あまりにペースが悪すぎる状況になってしまったので、それが今回のレースのすべてでしたね。しっかりと原因を特定し、反省して次戦オートポリスでリベンジしたいと思ひます。応援ありがとうございました！」



TGR TEAM KeePer CERUMO

決勝結果表

Rank	Car No.	CarName	Lap	Diff
1	17	Astemo HRC PRELUDE-GT	84	
2	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	84	4.729
3	100	STANLEY HRC PRELUDE-GT	84	5.236
4	36	au TOM'S GR Supra	84	6.101
5	37	Deloitte TOM'S GR Supra	84	6.856
6	19	WedsSport BANDO GR Supra	84	8.810
7	24	REALIZE CORPORATION Z	84	19.037
8	23	MOTUL Niterra Z	84	45.482
9	8	#8 ARTA MUGEN HRC PRELUDE-GT	84	50.787
10	38	KeePer CERUMO GR Supra	84	1'00.526
11	14	ENEOS X PRIME GR Supra	84	1'04.659
12	64	Modulo HRC PRELUDE-GT	83	1Lap
13	12	TRS IMPUL with SDG Z	58	26Laps
	16	#16 ARTA MUGEN HRC PRELUDE-GT		84Laps



TGR TEAM KeePer CERUMO

ポイントランキング

Rank	Car No.	CarName	Point
1	36	au TOM'S GR Supra	58
2	17	Astemo HRC PRELUDE-GT	45
3	100	STANLEY HRC PRELUDE-GT	38
4	16	#16 ARTA MUGEN HRC PRELUDE-GT	33
5	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	32
6	14	ENEOS X PRIME GR Supra	31
7	8	#8 ARTA MUGEN HRC PRELUDE-GT	29
8	38	KeePer CERUMO GR Supra	28
9	23	MOTUL Niterra Z	25
10	12	TRS IMPUL with SDG Z	20
11	37	Deloitte TOM'S GR Supra	18
12	24	REALIZE CORPORATION Z	15
13	19	WedsSport BANDO GR Supra	7
14	64	Modulo HRC PRELUDE-GT	1

